第8番 熊谷寺

- ●徳島県阿波市土成町土成前田185 ☎088-695-2065
- ●宿坊/なし



第9番 法輪寺

- ●徳島県阿波市土成町土成字田中198-2 ☎088-695-2080
- ●宿坊/なし



沿線の見どころ



天然温泉 御所の郷

阿讃の麓に湧く極上の天然温泉で、遍路道沿いにある。毎日男女が入れ替わる和の湯「けやき」や古代ローマの湯「ビーナス」のほか、低温サウナ、スチームサウナなどたくさんのコースがあるので、たっぷりと癒やしの時間を楽しんで。リラクゼーションマッサージでさらに上の癒やしも体験できる。女性専用の岩盤浴もあり。

所 徳島県阿波市土成町吉田字梨木原1 熊谷寺から東へ1.6km

☎ 088・695・4615 営 10:00~23:00(札止22:00)



境内の見どころ



山門

山門は、高さ13.2mの和様と唐様(禅宗様)の折衷様式で、貞享4年(1687)に建造された県指定の有形文化財。四国霊場の木造山門としては最大規模であり、2層目の天井・柱等には極彩色の天女像等が描かれている。また、現存する大看板「普明山」の額は安政大修理の時に寄付されたといわれている。



境内の見どころ



多宝塔

安永3年(1774)に建立された。胎蔵界の大日如来を中心に、東側に阿閦如来、南側に宝生如来、西側に無量寿如来、北側に不空成就如来と、四方に四仏が祀られている。色彩豊かに彩られたこの塔は、多宝塔としては四国地方最古にして最大規模を誇っている。建物に施された数々の彫刻もじっくりと見ておきたい。





日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・士佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国通路を世界遺産に



第8番

普明山 **熊谷寺**

ふみょうざん しんこういん くまだに

歴史を偲ばせる堂宇が今なお残る

歴史•全体像

弘仁8年(817)、弘法大師が熊谷寺の関伽ヶ谷(あかがたに)で修行している時に熊野権現が出現。「長く衆生済度の礎とせよ」と告げ、一寸八分(5cm余り)の金の観音像を授けた。そこで大師は等身大の千手観世音菩薩を刻み、その胎内に熊野権現から授かった観音像を納め、堂を建立して本尊として安置した。これが、熊谷寺の始まりと伝えられている。

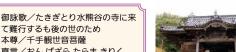
元禄年間(1688~1704)にかけて、大師が修行した伝説の地に堂塔が次々と建てられ、現在の境内の基となった。山門、大師堂、多宝塔など、歴史を偲ばせる建造物が今なお残り、重厚な風情を漂わせている。

境内

山門をくぐり、長い坂や階段を上っていくと中門が見える。本堂は中門を上った正面、山の中腹部にある。

本堂と本尊の千手観世音菩薩は、昭和2年(1927)に火災に遭い全焼した。現在の本堂は、昭和15年(1940)再建の本尊を安置する奥殿と拝殿、昭和45年(1970)再建の供養殿から成る。本尊は供養殿とともに再建された。

また、本堂から階段を36段上ったところにある大師堂は、屋根に据えつけられた露盤から、宝永4年(1707)の建立とわかる。安置されている大師像も永享3年(1431)の作と古いものである。



真言/おん ばざら たらま きりく 宗派/高野山真言宗 開基/弘法大師



歴代住職の尽力によって再建された本





日本遺産

